

## 令和8年度第1回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会 会議録

### 1 日時・場所

令和8年6月11日（木） 10:00～11:25

役場庁舎202会議室

### 2 出席者

審議会委員：14名出席

木村由美子副委員長、齊藤嘉保委員、六平亘委員、竹内知子委員、金野泰久委員、山口隆夫委員（代理 春山祐美子様）、瀬尾広行委員、栗原利夫委員、石崎徳幸委員、日下部麻衣委員、松島志保委員、阿部康彦委員、工藤明雄委員、蛭田真由美委員  
事務局：島村圭一教育長 加藤裕一学校管理幹兼副課長

### 3 開会

### 4 任命書交付

### 5 挨拶

教育長から挨拶

### 6 自己紹介

### 7 委員長挨拶

木村副委員長から挨拶

### 8 議事

#### (1) 小・中一貫教育の推進について（事務局）

資料のとおり

#### (2) 各小・中学校における小・中一貫教育の取組について

①須賀中学校区（須賀中学校、須賀小学校）

②百間中学校区（百間中学校、東小学校、笠原小学校）

③前原中学校区（前原中学校、百間小学校）

資料のとおり

#### (3) 協議

木村副委員長：各校の発表や小中一貫教育について、何か意見はありますか。

蛭田委員：普通の保護者は、今回の各学校の発表のような取組について知る機会が少ないた

め、大変よい経験となりました。宮代の学校に通っていてよかったと思える教育をしていたので、保護者も内容を知り、学校と協力しながら盛り上げていければよいと思いました。

松島委員：他の中学校の情報がなかなか入ってこないため、このような場で話を聞ける機会がありよかったと思いました。また、一番上の子どもの中には、中学校のテスト勉強の仕方が分からず苦労しました。兄弟がいれば教え合うこともできますが、初めての場合はどのように勉強すればよいか分からないため、アドバイスをもらえる機会があるとよいと思いました。

阿部委員：「中1ギャップ」という言葉を初めて聞きました。この会のテーマでもあると思いますが、あまり認識していなかったため、どのようなものか教えてほしいです。小学校の段階で中学校のテストについて話をしてもらうことは、とてもよいことだと思います。

加藤：中1ギャップとは、小学校と中学校の違いによって学校に通いづらくなる子どもが増えることを指します。例えば、小学校では担任の先生が中心となって授業を行います。中学校では教科担任制となり、教科ごとに先生が変わります。そのような環境の変化に戸惑い、不登校になる割合が増えることから、「中1ギャップ」と呼ばれています。

木村副委員長：昔は、小学校で教科ごとに先生が変わるのは音楽くらいでしたが、中学校では多くの先生が関わるようになります。また、部活動が始まり、生活リズムも変化します。先輩・後輩の人間関係もあり、その変化になじめない子どももいます。そのような中で、本日の発表にあったような取組によって、以前より不安が軽減されていると感じました。

日下部委員：初めて聞く話が多くありました。学校によって方針が違うことで差が開くのではないかと感じました。子どもたちは早い段階から中学校を意識しており、本当は友達と同じ学校へ行きたいが、やりたい部活動があるため別の中学校を選ぶなど、不安に思うこともあります。子どもたちが中学校について前向きに考えられる機会がほしいと思います。大人の感覚で段階的に進めていることは理解できますが、気持ちの面にも配慮してほしいと思います。

島村教育長：学校の教育方針は、公教育として学習指導要領に準拠しています。ただし、子どもや地域性の違いにより、それぞれの学校に特色があります。子どもたちは成長期の中で考え方も変化します。中学校では制服、教科担任制、部活動などの変化があり、それについていけず不登校が増える傾向があります。その課題を解消するために、この会議を行っています。また、成長の過程で考えたり迷ったりすることも必要です。ただ単に「階段を上っておいで」と言うだけではなく、手を差し伸べながら支援していくことが必要です。しかし、優しくするだけでは高校進学後に困ることもあるため、自分の力で乗り越えていけるよう後押ししていくことが大切だと考えています。

木村副委員長：部活動を理由に中学校を選択する同級生もいました。今後、部活動の地域移行が進むことで、中学校選択の考え方も変わっていくと思います。

工藤委員：初めて参加しましたが、各学校の特色が出ていて素晴らしいと思いました。親として育った環境を振り返ると、縦のつながりは意識されていますが、横のつながりも大切だ

と感じます。他の中学校と交流できる場があれば面白いと思いました。

栗原委員：数値について説明しましたが、あくまで生き方教育がベースにあります。町全体として学力は向上しています。以前は中学校進学後に学力が下がる傾向がありましたが、現在は町全体で改善しています。現在求められている学力を意識し、相互授業参観など横の連携にも取り組んでいます。

齊藤委員：教育は充実していると感じます。私自身も教員をしていましたが、8年前と大きく変わったのはICTです。以前は画板を見ながら描いていましたが、現在はタブレットで写真を撮り、それを見ながら教室で描いています。ICTについても小中一貫で取り組めればよいと思います。また、特別支援学校との交流について、現在も続いているのでしょうか。

加藤：百間小学校で実施しています。

竹内委員：先日、4年生が特別支援学校へ行きました。本校では徒歩で行ける距離に宮代特別支援学校があるため、半日の交流を行っています。総合的な学習の時間に内容を考え、ゲームや読み聞かせ、発表などを行っています。特別支援学校の先生方も、一緒に楽しめるゲームを考えてくださっています。先生方が小さなことでも褒めてくださるため、子どもたちは自己肯定感を高めて帰ってきます。初めて重度の障害のある子どもを見ることで驚く子どもいますが、帰る頃には「またね」と手を触れ合う姿が見られます。共生について学ぶ非常によい機会となっているため、毎年継続しています。

木村委員：先生同士の交流によって、9年間を見通した継続的な指導が行われており、それが学力向上につながっていると思います。また、「生きる力」という観点では、ICTやAIが非常に速いスピードで進展しています。低年齢化も進み、AIを相談相手にすることが社会問題にもなっています。人には言いづらいことをAIに相談することで、人間関係が希薄になることも懸念されます。ICTをうまく活用しながらも、自分で考える力や質問する力を育ててほしいと思います。生徒任せにすると教育的にふさわしくないことが起こる可能性もあり心配しています。教育者側もアップデートを行い、道徳面やリテラシーについて考える必要があります。AIとの関わり方や、人を思いやる心、想像力を育ててほしいと思います。また、「どのようなことが起こるか」を想像し、考える力を育ててほしいです。便利になる一方でリスクも高まっているため、小中9年間を通して、心豊かに生きる力を高めていただければありがたいです。

島村教育長：ChatGPTなどのAIは人間の脳とは異なるものであり、その点を理解する必要があります。各学校では、心の教育や生き方教育を行っており、本日はその中でも特色ある取組を発表していただきました。今後も皆さんで知恵を出し合いながら取組を進め、次回、その成果を評価していただきたいと思います。

## 9 その他

### 事務連絡

## 10 閉会